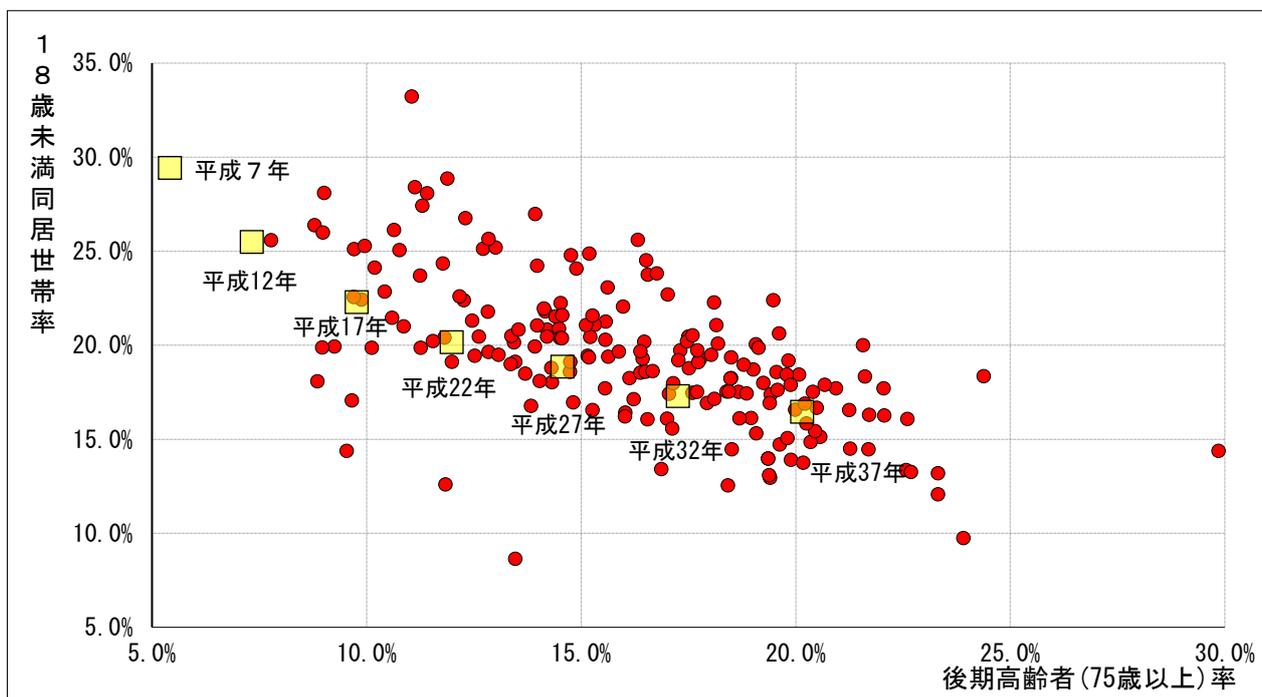


第Ⅱ部 持続可能な地域づくりの担い手たち

- 1 剣淵町「絵本の里けんぶちVIVAマルシェ」
- 2 羅臼町「羅臼町活性化ワーキンググループ」
- 3 浦幌町「うらほろスタイル推進地域協議会」
- 4 豊富町「豊富温泉もりあげ隊」
- 5 真狩村「コミュニティレストランの起業」
- 6 岩見沢市「NPO法人 炭鉱（やま）の記憶推進事業団」
- 7 旭川市「NPO法人 グラウンドワーク西神楽」

第Ⅱ部 持続可能な地域づくりの担い手たち



上の図は、国勢調査等を参考に、道内の各市区町村の後期高齢者(75歳以上)率と18歳未満の同居率を示しています(●は各市区町村、■は各年の全道平均)。

この図からは、これまでの少子高齢化対策によって、その速度はやや遅くなっているものの、今後、本道の高齢化が着実に進展し、青少年との同居世帯数も減少していくことが読み取れます。

高齢化は、生涯学習の振興に取り組み始めた当初から大きな課題¹とされてきており、教育行政では、それに対応するため、退職後の余暇活動などの生きがいづくりや仲間づくり、健康づくりを中心とした施策を推進し、こうした取組は、高齢期を迎えても地域に参画し、一人ひとりが充実した人生を過ごしていく上で一定の役割を果たしてきました。

一方、独居高齢者の増加や限界集落など、少子高齢化に伴う今日的な課題は、地域の経済成長の停滞とも相まって深刻化しており、こうした側面から生涯学習を振興していくことも必要となっています。道では、平成27年2月、「持続可能な潤いのあるふるさとづくり」を目指す姿とする「第3次北海道生涯学習推進基本構想」を策定し、「道民カレッジ」を中心に学習機会の提供などに取り組むとともに、市町村をはじめ、関係機関や団体等に対して、積極的な生涯学習の振興を働きかけております。

第Ⅱ部では、既に道内各地において、持続可能な地域づくりに取り組まれている方々を御紹介します。事例に倣ってみなさんの地域での取組を検討するなど、学びの題材として御活用ください。

※ なお、事例の詳細については、第Ⅲ部(P45～)に掲載しております。

¹ 「生涯教育について」(S56.6 中央教育審議会答申)、「生涯学習の基盤整備について」(H2.1 中央教育審議会答申)